

## ロシア沿海地方知事 鳥取県議会で演説

11月25日、ロシア沿海地方のミクルシェフスキー・ウラジーミル知事が、鳥取県議会議場で演説を行った。

ミクルシェフスキー知事は、ロシア沿海地方と鳥取県の友好交流25周年の記念事業出席のため来県。11月定例会の開会にあたり、議場で演説いただくこととなった。

外国の知事が議場で演説するのは、平成16年に韓国江原道の金<sup>キム</sup>振旻<sup>ジンソン</sup>知事以来12年ぶり。

ミクルシェフスキー知事は、鳥取県中部地震の被災者に見舞いの言葉を送られるとともに、「真の友人は、嬉しい時よりも困難な時にこそわかる」というロシアのことわざを引用し、沿海地方が8月の台風で被災した際に鳥取県から届いた励ましに感謝の念を示された。

また、沿海地方の住民の間で鳥取県の観光地や文化などへの関心が高まっているとして、従来の交流関係を維持し、観光・経済分野での関係拡大の必要性を訴えられ、DBSフェリー、鳥取ウラジオストクチャーター便、企業家同士の協力等を促進することが大事、お互いの地域住民のためにこれからも協力して経済・文化の共同プロジェクトの実施を期待すると述べられた。



## 国際交流と海外調査

鳥取県議会では、友好提携している諸地域との地方間の国際交流に力を入れている。

7月23日にブラジルサンパウロ州において、第2アリアンサ鳥取村入植90周年記念式典が開催され、藤縄副議長を団長に、森議員、福田議員の3名が参加した。

第2アリアンサ鳥取村では、1994年から現在まで、同地の日本語学校に本県の教員を派遣し、日本語指導や文化等の伝達に尽くしている。生徒たちの日本語能力は非常に高く、今後も継続した教員派遣の必要性を強く感じた。また、ブラジル鳥取県人会の皆さんとの意見交換を行い、次世代の交流を担う新しい人材の育成が最重要課題であることを痛感した。



10月17日から20日まで台湾へ上村議員を団長に、6名の議員を派遣した。

観光誘客に係る現地動向と課題、地域間・学校間交流の現状や今後の可能性を探るとともに、防災の取組などについて調査を行った。

訪問先のうち、台中市温泉観光協会では、三朝温泉旅館協同組合と「温泉交流促進に関する覚書」を結んでおり、相互訪問も行われている。今後、様々なレベルでの交流が広がっていくことが期待されるものであった。